



(株)馬場木工
従業員のみなさん



「立つ」「座る」を

手助けする家具

(株)馬場木工
代表取締役社長 馬場 末広さん

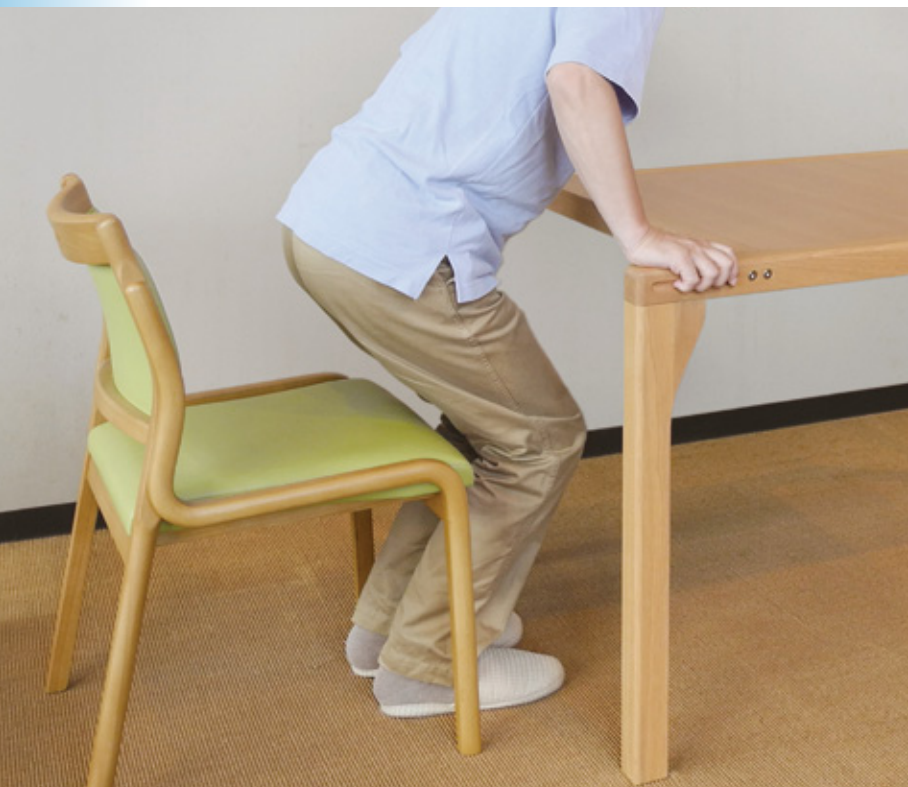
(株)馬場木工が開発した「手助けくん」は、高齢者や障害者の質の高い生活を意図した、福祉家具である。平たく言えば「手すりをつけたテーブル」で、リハビリの補助具としての役割も果たす画期的な家具だ。

「高齢者や障害者の生活を『危険だから』と言う理由で、周りが行動を制限する傾向にあります。このことは悪循環につながります。筋力低下を招き、だんだんと弱ってしまふのです。ですから、『立つたり座ったり』と言う基本動作は重要です。この点、『手助けくん』は自立支援家具として、高齢者や障害者をサポートするのです。」

社長の馬場末広さんは、高齢化が進む社会にあつて、「手助けくん」シリーズが、会社の柱になっていくことを期待している。

「手助けくん」が生まれたきっかけはなんだろうか。それは国際医療福祉大学リハビリテーション学部教授であった、齊場三十四さんの一言。「何でも良いので、福祉家具の試作品を自分で作ってほしい！」これは四年前、大川福祉家具研究開発協議会のことだ。当時齊場さんは、事務局長で指導的役割を担っていた。早速、自社のスタッフと共に検討を重ね、図案化までこぎつけた。「これはおもしろい！」と思った。これが





テーブルの脚の部分が手すりの役割を果たす



自立支援家具「手助けくん」
サイズのオーダーは可能

「手助けくん」の始まり、そしてその後、改良を続け、実用新案まで取得できた。馬場さんは、「『経営革新計画』を県から承認されたことが、その後の進展に大きな助けになりました！」と話される。どういふことだろうか。「それによって、さまざまな価値ある情報が入るようになりました。また人との貴重な出会いもありました。」

所で、経営革新を取得した企業が集まる、「経営マッチング」に参加できた。「それを契機に、ある建設業企業とタイアップして、『手助けくん』を生かした新しい試みを提案できるようになっています。」

また経営革新計画承認をステップとして、「久留米市のづくり振興事業費補助金」を取得できた。量産化に向け、弾みが付いた。さらに「大川インテリア産業新事業促進事業」の認定を受け、広報用パンフレット制作への補助を受けられるようになった。そして、今年の四月には、国の「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」交付を申請している。切削に優れた、種々の機械導入・生産力アップを念頭に置いたものだ。

馬場さんは「大川の他の企業も『経営革新計画』を積極的に取得されれば良いと思うています。きっと新しい分野が開けてくるはずですよ。」と話される。確かに「経営革新計画」は経営の大きな味方だ。いま馬場さんが、「手助けくん」と共に力を入れているのが、杉材を使った家具づくり。「日本古来の建造物には、杉が多く使われてきました。神社仏閣などです。そして今も国内にたくさん杉があります。これを活用して、多くの方々に木の暖かさを是非実感してもらいたいと思っています。」

さて、夢は何だろうか。「『手助けくん』を多くの方に利用していただくことです。今後、量産化とともにさらに改善を続けていきたいと思っています。障害があっても、高齢になっても質の高い生活を願う方の手助けになればと思います。また『手助けくん』の販売拡大が大川の技術力の確かさ、大川のイメージアップにつながることも願っています。」



「手助けくん」は
手摺付きテーブルとして
実用新案登録された



「手助けくん」から生まれた靴置き



杉材を使った家具たち

http://babamokkou.web.fc2.com
mail babamokkou@mse.biglobe.ne.jp
TEL.0942-64-5261 FAX.0942-64-5262

株式会社 **馬場木工**
〒830-0111 福岡県久留米市三潴町西牟田2225